

2010年3月17日勉強会議事録

課題本 福澤諭吉『文明論之概略』

発表者：石堂（代理：中山）（緒言～第三章）・中山（四章～六章）

出席者：嶋田研・安達・市川・今長谷・十河晃・中山・嶋田紫・久富

記録者：久富

## 第一章

### ○ 文化と文明について

ここでは、文化と文明についての各々のイメージを話し合った。

安達君がラオスのかご型の飯盒でお米を炊いてきてくれたものをメンバーにふるまってくれ、ラオス・ベトナムの旅中で感じた思索をレジュメにまとめて紹介してくれた。また今回、福岡から参加の今長谷君が、自らが関わっている地元の祭「山笠」を紹介してくれ、その経験から文化文明に対して語ってくれた。

文化： culture—cultivate（耕す）

文明： civilization（civil—市民化）

- ・ 文化とは世代を通じて伝承するものであり、担い手が重要となってくるのでは。逆に文明は技術として委譲が可能なもの、担い手は制度や技術といったものになるのでは。
- ・ 文明はマニュアル化できるもの、時に制度だけが一人歩きすることも・・・
- ・ 技術という言葉に対して、パソコンやプログラミングなどではなく、知恵・工夫の末に生み出されたものというイメージがある。
- ・ 文化とは、効率化という枠組みの外側に存在するような、自由な発想から生まれてくるというイメージ。
- ・ 文明のせいで文化が制限されている。日本の文化で生きていくならば、就職する必要性にせまられて生まれた町を出て行く必要はない。親の家業を継いでいけばよい。文明が文化を食っているイメージがある。  
などの意見が出た。

### ○ 文明が文化を駆逐する！？

ここでは、文化側、文明側の立場からのメンバーそれぞれ考え方を話し合った。

※文明の立場から考えると・・・

⇒文化を文明として捉える。例えば宗教は一見すると非効率だが、非常にシステムのであるとも言える。どうしても文化を“形”として捉えるので、伝統にも“しばられる”ように感じてしまう。

※文化の立場から考えると・・・

⇒文化とは幸せである。それを追求すると文明となっていく。さまざまな交流などにより今までの制度に対応できなくなる。その段階で発生するのが文明。決して文化と文明は対立するものではなく、文化はネガティブなものではない。

- 佐伯先生のゼミでは、日本の文明かについて、良いか悪いかではなく、必要に迫られて文明化したというスタンス。
- 文明になることが目標だったが、文明になるために効率を追求するとその効率化だけが目標になってしまい、大本が失われてしまっている。結果、進歩だけが目的となっている（現代にも言えることである）
- 文化の担い手は、やっていることを相対化して見ているのか。  
⇒例えば「山笠」。朝5時から重いものを大の男が持って何をするのか。決して効率的ではない。

⇒⇒⇒こういったことは福澤からすれば、続ける意味がない??

- 佐伯先生曰く・・・保守とはとりあえず続けていくことが大切。効率を追求するものではない。やめることで予想外のことが起こるかもしれない。続けることで今以上に悪くなることはないので、担い手が必要。
- 日本の祭・・・神様に感謝を捧げるためにやっているが、どうしても形式化していき、する意味が失われていく。その行為に意味を見出せるなら説得力がある。その説得力を補強するのが学者の役割では。
- 「山笠」も協働して従事することに意味があるのでは。ベトコンの際に週に一度で祭を行ったという。排他的になってはいけないが、共同体の意識を高めることに意味を見出せるのでは。地域でも、祭があるところにはまとまりがあるように感じる。
- イルカ漁が批判されていることについて・・・イルカ漁をすることに意義が見出せないとともに反論できない⇒価値観の問題ではという声も。
- その価値観にしても、その共同体だけの価値観では弱い。やはり世界的基準に照準が当たってしまう。マグロ漁も正当性を証明できない。
- 文明も西洋から生まれてきた・・・アジアに民主主義は根付くのかという問題

○ このままでいけば文化はなくなる!?

- 文明から相対化させるのではなく、内側から文化を形成していく。
- “文化を守る”という意識があるか。
- 「山笠」について・・・福岡の区画整理で“ながれ”が潰れた。しかし地域住民の中に、残さなければという意識を持った人間が立って、現在まで残っている。「山笠」とは・・・城壁がないため、街々が個別の考えを持って発展し、どこにも与しないため、博多という枠では括れないのだが、文明はそれを「山笠」でひとくくりにし、画一化する。そのようにして滅んでしまった（同一化されてしまった）文化はたくさんあるだろう。

- ・ 佐伯先生曰く・・・「保守」とは「革新」を抑えるため、必要上生まれている。はじめから「保守」があったわけではない。愛国心を語ることはなぜおもしろくないのか・・・愛国心は抽象化が困難であり、必ず地域と密接に関わるため。
- ・ 谷崎潤一郎のエッセイ『陰影礼讃』では・・・日本で文明が生まれていればこんなに悩む必要がなかったのにとこの谷崎の思いが、「トイレ」「蓄音機」などの例で挙げられている。

⇒⇒⇒文明が文化に合わせざるを得ない。文明は文化を基にして生まれたと言える。

## 第二・三章

### ○ 福澤の言う「国体」とは？

- ・ 愛国心教育と関係があるのでは。自分達とは、日本人とは何ぞやという教育を受けていないからわからないのでは。そこから議論する必要があるように思う。
- ・ 国体＝国として考えられ得るか？＝日本国
- ・ もう少し限定できないか。例えば日本なら天皇、イギリスなら女王など。
- ・ 制度だけではない別の何かがあるのでは。国体＝国として考えると政党だけの問題となるのでは。
- ・ セルフアイデンティファイした後のものでは？福澤の言う国体とは、なんとなく一体感をもつ程度の何かでは。
- ・ 国体と國體の違い。旧字では「体」は「骨」に「豊」と書く。國體＝天皇制のイメージ。

### ○ 文明は誰にとって便利なのか。

- ・ “誰”ではなく“何”では？

⇒福澤は“人間交際のため”の携帯は賛成なのだろうか・・・という疑問が出、ここから現代の教育の問題点を話し合った。

- ・ 携帯普及率の高さ・・・小学生の連絡網が消えた。必要に迫られて、という面も。
- ・ 子育てがお金に換算されている。塾の値段・・・教育が商品化している。

⇒経済力の差＝教育の差

- ・・・・経済力のない家庭は自分のことで精一杯なのは、という意見に、裕福でも会話がない家庭もあるので経済力と一概には言えない、親の質によるのではという意見が出た。

### ・ 大学の乱立

大学に行くことによって逆に学歴差別が生まれるのでは。

⇒“大卒”というレッテルを持ったために、高卒の仕事には就きたくない。“大卒”で通常求められる能力を持たない人間が増えてしまう。

- ・ 制度を作った人間が、その制度通りしてきた人間を否定する（例：ゆとり教育など）・・・社会も認めていない。
- ・ 全共闘時代からの教訓として、学生をまとまらせないために教育制度が変わったのは！？学生寮にも共有スペースがない（集まらせないため）

ここで、安達君が自身のラオス・ベトナム旅行での体験を通して考察したことを発表してくれた。国際貢献においては、ともすれば援助する側のエゴイスティックな自己満足になりがちという問題点があるが、実際に現地生活に入って現地の現状を把握し、本当に必要とされていることを見極めることが大切。その日を生き抜く暮らしの彼らの生き方は生態系の中での生活。

#### 四章～六章

- 衆論の非について (p97)
  - ・ 衆論の非…世論という点で現代にも通じる
- 何をもって進歩とするのか
  - ・ 向上心が必要・・・何か目標がなければ希望がない。今よりよくなることを信じるしかないという意見が出た。
  - ・ 日本では生存するために生活することがもはや成り立たない。生きることを目標にできない。生きること以上のものを目標にしなければもはや満足感を得られない。
  - ・ 現状に問題点があることをそこはかたなく感じているからこそ現状より良くなるよう向上心を持つことは進歩史観ではないのではないかという意見が出た。
  - ・ 進歩史観は過去よりも今は良いはずという前提で考える。福澤は、そうせざるを得ない状況の中で、今よりも悪くならないよう向上心を持って智恵をつけないければならないと主張しているので、進歩史観ではないと言えるのではという意見が出た。
- 「衆論」はどう「正せ」ばいいのか
  - ・ 一人ひとりのやる気の問題と考えてしまうと何もできない。
  - ・ 現在も当時も同じような悩みを抱えていると言える。
  - ・ 民衆が上部のやっていることを理解していれば良いのでは。
  - ・ 優秀な二、三人が必要・・・⇒それはある意味独裁では・・・？
  - ・ この時代は、衆論を巻き上げる（取り上げる）システムがない。優秀な人間が優秀な論を声に出さないと取り上げられない。
- 「衆論」の良し悪しは智の量で決まる
  - ・ 現代の選挙制度は良くも悪くも一票が平等。

- ・ 現在の民主主義は、その候補者を選んだのは国民であるはずなのに、国民の責任に取られない。
- ・ では智の量の測り方は・・・？

○ 「智慧」の重要性について (p152)

日本の病んでいる面は何が原因なのかという投げかけに対し・・・

- ・ 自分の労働が直接感じられない。直接的な達成感が得られない・
- ・ 仕事をする喜び、自分の仕事が何かに影響を与えることが実感できない。満たされない。お金を持っている人が元気になっている。
- ・ お金があれば幸せかという、それは疑問。
- ・ 目標がない。

という意見が出た。では、元気があったのはいつか・・・？

○ ニートはなぜ元気がないのか

- ・ 自分から、社会から一線を引いているのか、逃げているのか。
- ・ 昔であれば、引きこもると完全に世間と隔絶されていたが、現在はインターネットなど世間に出ずともバーチャルでつながることができる。
- ・ しかし人間としては健全でない。
- ・ 精神的な病気に陥る。「気がついたら人を殺していた」
- ・ いつしか子供に将来の夢を聞くと、野球選手やお花屋さんなど、「職業」しか言わなくなった。どういうことをしたいかということと言わなくなっている。
- ・ 人と人とのつながり、家族間の希薄さが病む原因となっているのでは。

★今回、勉強会の休憩時間に、持参した映像で今長谷くんが「山笠」紹介してくれました。

「山笠」の様子は、7月15日のAM 4：59～BSにて放送されるそうです。